

みんなで考えよう 私たちの地域医療 ～ 二つの公立病院を残すためには ～

問合せ 企画広報課(0833)72 - 1400・病院局(0833)72 - 1000

数多くのご意見・ご提言ありがとうございました

本市の病院事業について市民に的確な情報を提供するとともに、今後の方向性を見出す上での判断材料とするため、去る 8 月 3 日から 7 日にかけて、市内 4 会場で市民対話集会を開催し、全体で 562 人のご参加と数多くのご意見・ご提言をいただきました。

医療制度改革や新たな臨床研修制度など、医療を取り巻く環境が大きく変化する中、本市はもとより各地の自治体病院では、収支状況の悪化や医師不足など、経営状況が一段と厳しさを増しています。

こうした中、市が毎年行う「市民アンケート」でも「地域医療対策」の充実に求める市民ニーズは常に上位を占めており、将来にわたって、市民の皆さんが安心できる、安定した地域医療を持続していくことが市政の大きな課題となっています。

このため、市では、二つの公立病院を大きなメリットと捉え、両病院の存続を前提に、本市に必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくための規模や機能、運営体制など、今後の病院事業の方向性を検討してまいります。



みんなで考えよう私たちの地域医療

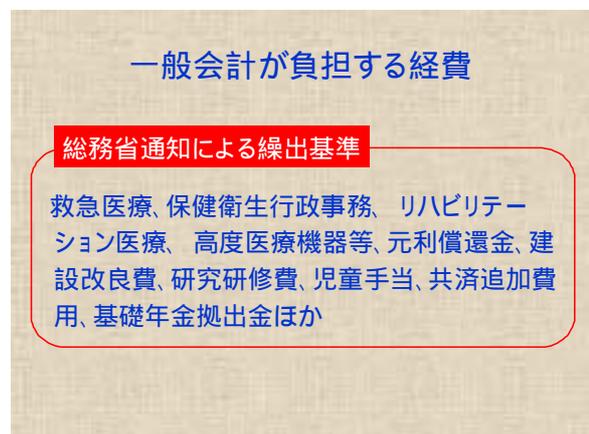
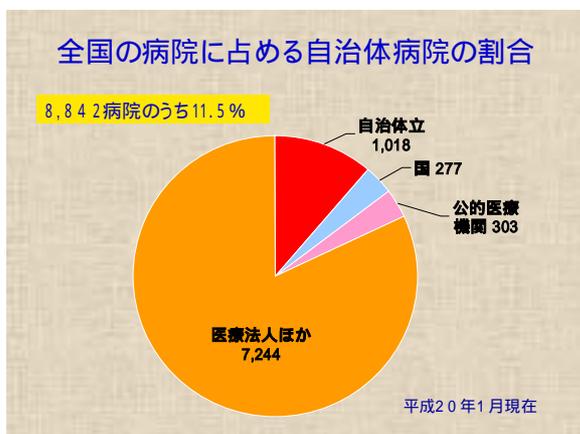
対話集会では、まず、病院経営の現状や課題など、両病院の方向性を考える上で必要な情報を皆さんにご説明しました。要旨は次の通りです。

1 公立病院の現状

(1) 公立病院の役割

全国には平成 20 年 1 月現在で 8,842 の病院があります。山口県立総合医療センターや光総合病院、大和総合病院など、県や市町村が設置している公立病院はそのうち 1,018 で、全体の 11.5% を占めています。

公立病院は、採算性等の面から民間病院では困難な医療を提供することが役割とされており、へき地医療や災害医療などに積極的に取り組むとともに、各地域における拠点病院として住民の健康と安心を守っています。



(2) 地方公共団体からの経費負担

経営面では、公立病院は地方公共団体が設立した公営企業と位置付けられており、公共の福祉の増進という目的と、民間企業と同様に独立採算を原則とするという側面を併せ持っています。こうしたことから、公共的見地から取り組むべき不採算な医療については、国が示した基準に基づき、地方公共団体の一般会計から経費を負担することになっています。

(3) 医療費抑制政策と新臨床研修制度

近年、全国の公立病院の経営状況は非常に悪化しています。公立病院全体を見ると、経常損益は毎年赤字で、平成 19 年度の赤字は 2 千億円、累積欠損金は 2 兆円に達しています。公立病院個々では 7 割以上が赤字という状況にあり、診療所への規模縮小や民間譲渡などにより、公立病院の数は減少傾向にあります。

このような経営状況の悪化の原因として、まず、国の医療費抑制政策があげられます。これは、国が年々増加する国民医療費を抑制するため、患者の自己負担割合を引き上げるとともに、総医療費抑制のために診療報酬の引き下げを行ったものです。結果として医療

機関の減収をもたらし、自治体病院に限らず多くの医療機関の経営を悪化させました。

(国民医療費の増加)

	S60	H15
国民医療費総額	約 16 兆円	約 32 兆円
国民 1 当たり医療費	約 13 万 2 千円	約 24 万 7 千円

もう一つの原因として指摘されるのが医師の不足です。これは、平成 16 年に創設された新臨床研修制度により、都市部の病院や研修指定病院に研修医が集中して、地方の大学病院で医師不足が生じたため、大学病院が公立病院に派遣していた医師を引き上げざるを得なくなったことによるものです。

国は現在、医師不足に対する施策として、平成 20 年度から大学医学部の定数を増やすとともに、新臨床研修制度自体についても見直しを図っていますが、今なお、地方の公立病院では医師の不足が大きな課題となっています。

(研修医採用実績)

	H15	H19	H20
研修医採用実績 (山口県)	93 人	67 人	57 人

2 光市病院事業の現状

光総合病院は、現在 210 床の一般病床を有しています。診療科は 13 科あり、光市の中核病院としての 1 2 次医療やへき地医療、救急医療を担うとともに、小児の入院医療や高度先進医療、人工透析などの特殊医療も行っています。

一方、大和総合病院は、現在一般病床 220 床、療養病床 60 床の計 280 床を有しています。診療科は 11 科で、大和地域を中心とした地域の中核病院でありながら、民間医療機関が少ないことから、2 次医療だけでなく 2 1 次医療も担うなど、地域の医療、保健、福祉の総合的な包括医療を行っています。

1 2 次医療...比較的専門性の高い外来医療や一般的な入院医療を対象とする医療機関

2 1 次医療...日常的な軽度の疾病を対象とする医療機関

(利用状況の推移)

	光総合病院		大和総合病院	
	H13	H20	H13	H20
一日平均入院患者数	185 人	141 人(一般病床)	153 人 42 人	114 人(一般病床) 54 人(療養病床)
1 日平均外来患者数	573 人	403 人	638 人	306 人
病床利用率	88.3%	67.0%	69.8%	60.0%

(医師数の推移)

	光総合病院		大和総合病院	
	H17	H21	H17	H21
医師数	20 人	17 人	20 人	16 人

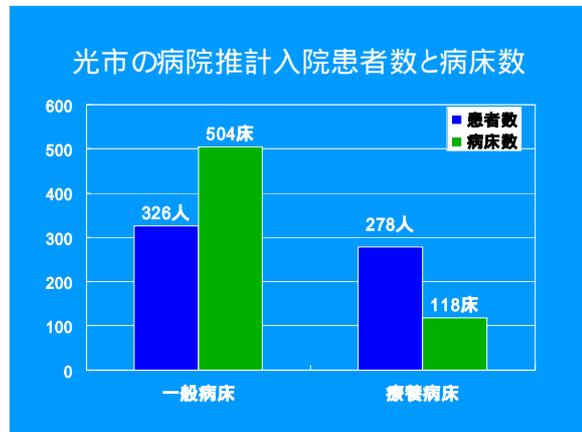
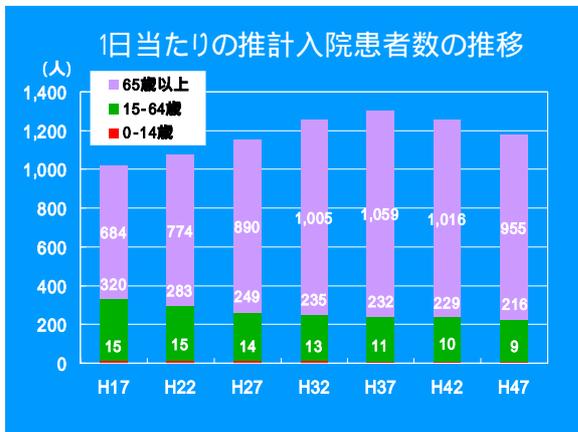
(経営状況)

		光総合病院	大和総合病院
平成 20 年度 収支 見込	収益	29 億 9 千万円	26 億 5 千万円
	費用	30 億 7 千万円	27 億 9 千万円
	差引き	8 千万円	1 億 4 千万円
	累積剰余金	約 2 億円	
	累積欠損金		約 18 億円
平成 20 年度末 起債残高		約 17 億 2 千万円	約 30 億 1 千万円

3 光市の医療需給動向

年齢階層別の人口動態と推計入院患者数をもとに、本市の今後の医療需要を推計したところ、総人口が減少する一方で、入院の可能性が高い老年人口の割合が増加することから、平成 37 年度までは入院患者は増加し、その後は減少するという結果が出ています。

また、病床区分別ごとの推計入院患者数を比較すると、光市では、3 一般病床が過剰で 4 療養病床が不足している状況にあると言えます。



今後に向けて

本市では病院経営の現状や課題を踏まえ、これからの光市に真に必要な地域医療とは何か、また、公立病院としてどのような医療機能の充実を図るべきかなど、病院事業の方向性について検討を行っているところです。

さらに、市長の私的諮問機関として設置した「光市病院事業あり方検討委員会」に対して、2つの病院の存続を前提に、本市に必要な地域医療を安定的かつ継続的に供給していくための両病院の規模や機能など本市の病院事業のあり方について諮問しています。

市では、このたびの市民対話集会をはじめ、市議会からの意見や「あり方検討委員会」からの答申を踏まえたうえで、関係部署による協議検討を重ね、今年度中に光市病院事業の方向性を示す予定としています。

- 3 一般病床 精神病床、感染症病床、結核病床及び療養病床以外の病床
- 4 療養病床 人的・物的に長期療養にふさわしい環境を有する病床

